



No.84

市民ネットワークちば



湯浅美和子



山田京子

市民ネットワークの代理人(市議会議員)

発行責任者 岩崎 明子・山崎 邦子

編集・発行 市民ネットワークちば 〒260-0013 千葉市中央区中央 4-10-11 TEL&FAX 043-201-2551

千葉市は女性が働きやすい街ですか? 介護 編

仕事を続けながらの介護、大切なことは何?

介護が必要になったときの窓口は「あんしんケアセンター」

介護をしている家族への支援は? 経済的支援など

千葉市には介護をしながら仕事ができる環境はあるのか

要介護度3になって初めて同居することになった姑。その後、施設に入所するまでの期間、デイサービスやショートステイをフルに活用しつつ、文字通り、仕事をしながらの介護となりました。早朝からの仕事や夜の会議、出張などもありましたが、夫や娘、家族総動員でやり過ごすことができました。

幸運にも、何でも相談できるケアマネージャーさんに恵まれ、また、ちよつとした不満は娘と思いつきりいいあい、お互いにすっきり!

厚生労働省では、団塊の世代が70歳代に突入するなか、働き盛り世代が介護者となり、介護と仕事の両立が困難になることが予想されるため、介護休業制度の周知を図り、介護者の継続就業を促進しています。厚生省が24年度行った、介護者の課題を把握する実態調査では、介護を必要とする親がいる場合、女性が介護者となつて離職する割合が高いと推察できる結果もありました。私たちが行ったアンケートでは働き続けることのほうがよいのでは、という意見が多くありました。

介護サービスの充実とその情報提供、そして柔軟な働き方を可能にすること等の大切さが見えてきました。(M.Y.)

高齢者の介護や暮らしのことで相談したいときは、千葉市からの委託を受けて運営されている「あんしんケアセンター」が窓口となっています。各区に3〜5か所設けられており、居住する町ごとに担当センターが分かれています。高齢者本人、家族、あるいはご近所の方などからの相談も受け付けています。

私の地区のあんしんケアセンターはどこに?

3年に一回、満65歳以上(すでに要支援・要介護の認定を受けた人を除く)の市民に郵送している基本チェックリスト(生活機能に関する質問票)に回答すると、結果アドバイス票とともにあんしんケアセンターのお知らせが返送されるほか、65歳到達時に介護保険の被保険者証を郵送する際にもあんしんケアセンターのお知らせが同封されています。また、区民まつりにブースを出してあんしんケアセンターの存在を知ってもらうよう努めたり、介護予防の普及啓発に資する活動として、各地で健康教室や手先を使う手芸教室などを開催しています。詳しくは市の高齢福祉課(電話番号 043・245・5168)に問い合わせを。

アンケートに寄せられた声

この特集記事を作成するに当たり、介護を経験した方々などへのアンケートを行いました。介護経験者からはこんな声が寄せられています。

仕事をすることで外に出て、介護から離れる時間を作ることは大切。忙しいけれど、気持ちの逃げ場ができる。

介護はプロの手にゆだねたほうがいい。家族だけで担うのは共倒れになりかねない。

以前と変わった様子に気づいたときに介護認定を受けておけば、その後介護サービスが必要になったときの手続きがスムーズ。

社会全体で時間的に融通が利く働き方ができるようになると、子育ても介護もしやすい。

介護をする人、される人の状況により最適な介護のあり方は十人十色だと思いますが、介護をしながら仕事を続けたいと思うならば、できるだけアンテナを高くして情報を集める努力をする必要があると感じました。千葉市は高齢者保健福祉推進計画のためのニーズ調査などを行っています。本当に必要な支援がその計画に含まれるよう、皆さんからも要望を市民ネットワークまでお知らせください。市民ネットワークちば広報部

おむつを利用する際の経済的負担を軽減するための「おむつの給付事業」があります。昨年度実績では約8000人が利用、費用は平成26年度予算において3億円を超えています。この費用は年々増加しており、今後増え続けると予想されています。そのほか寝具乾燥サービス、日常生活用具給付、訪問理美容サービス、住宅改修費支援サービスなど多様な支援が行われています。

認知症の方と家族への支援 「認知症の人と家族の会千葉県支部」に委託し、認知症介護研修を年4回行っています。内容は、講義及び身体介護の実技

このほか、「ちば認知症相談コーナー」を開設しています。電話043・238・7731(フッシュ回線の固定電話からは局番なしの#7100も使えます)

今回千葉市に取材をしてみ、介護について積極的に情報を得ようとする市民には、それに応える準備がかなり手厚く整えられているという印象を受けました。介護保険制度のサービに当てはまらず、「でもちよつと頼みたい」時に頼りになる、地域で活動している団体もあります。市民ネットワークちばの活動に関わるメンバーが始めた「たすけあいサポートアイアイ」(美浜区)や「てくてく」(若葉区)などがよい例です。千葉市は、今後策定する3か年の高齢者保健福祉推進計画でこのような団体を育てるところから始めること。支援を上手に利用していけば、介助・介護と仕事の両立にもゆとりが持てそうな気がします。